【授業科目】検査リスクマネージメント　Laboratory Risk Management

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森本 誠、平澤 浩 日比 敏男、藤田 孝	3年次 後　期	必修	1	15	講 義	あり		可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	臨床検査の現場では様々な危険因子がある。ヒューマンエラー、検査システムのエラーなどの具体例を臨地実習で実際の医療現場において経験した。現場ではさらにインシデント、アクシデントも起こりうる。臨床検査室の各部署においては部署特有なリスクも存在する。医療事故を防ぐためにも危険性を理解し、回避法、事故発生時の対処法を学ぶことは重要である。本講義は実習施設の実習責任者を含めたオムニバス形式で行う。現場で実際起こりうるリスクマネージメントを様々な角度から総合的に教授する。 さらに、針刺し事故、感染性廃棄物、毒物・劇物取扱、ヒヤリハット報告書などに関するリスクマネージメントについても話を進める。 課題に対するフィードバック方法／提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する。
実務経験に関する 授業内容	臨床検査室の管理運営、リスクマネージャーとして医療安全管理について経験を持つ教員が、医療事故防止のための取り組みについて経験を交えて講義を行う。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健･医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①　各検査分野におけるリスクを理解し説明できる。 ②　種々のリスクに対して対処法を説明できる。 ③　検査部門の管理者としてのリスクマネージメント法を学び説明できる。
時間外学習に 必要な学修内容および 学習上の助言	臨地実習など種々の医療現場で学んだリスクマネージメントの現状を把握しておくこと。 第１回～15回　事前学修：配布される資料を事前に読んでおく（各３０分） 第１回～15回　事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各３０分） ※その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各６０分）。 上記例は、１単位１５回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間／１回となる。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　リスクマネージメントとは、リスクマネジメントの基本事項　日比 第 2 回　医療事故の定義、臨床検査における事象、インシデント・アクシデント　日比 第 3 回　病理検査におけるリスクマネージメント①（安全管理、環境管理）　平澤 第 4 回　病理検査におけるリスクマネージメント②（感染管理）　平澤 第 5 回　針刺し事故、輸血に関わるリスクマネージメント　森本 第 6 回　災害時に関するリスクマネージメント　藤田 第 7 回　検査情報に関するリスクマネージメント　藤田 第 8 回　ヒヤリ・ハット報告書の作成手順を含めた安全管理　藤田
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 レポート80%、授業態度20%
教科書	資料を配付します。　　参考書等　なし
学生への メッセージ	実際の臨床現場の先生方からどのような過誤があり、その対処法、過誤を未然に防ぐ安全管理方法について講義していただく。現場で働くうえで重要な項目であるためしっかり理解すること。